



弓削商船だより

独立行政法人 国立高等専門学校機構 弓削商船高等専門学校

〒794-2593 愛媛県越智郡上島町弓削下弓削1000番地 TEL 0897-77-4617 FAX 0897-77-4680
企画広報室 情報・広報係 ホームページアドレス <https://www.yuge.ac.jp>



商船学科4年 航海訓練所

目

次

令和2年度 前期級長・副級長・学級担任一覧	1
航海訓練所 日本丸に乗船	1
インターンシップ学生体験談	2
令和2年度 次世代の海洋人材の育成	3
令和2年度 オープンキャンパス開催	3
商船祭・体育大会	4
学生会より ごあいさつ	4
地域創生コーナー	5
尾道市内小学生を対象に「海事教室」実施	5
「チャレンジキャンパス2020」開催	5
「ひとこねくと」支援センター事業	6
コンテスト出場報告	6
クラブ活動報告	7
令和元年10月～令和2年9月のクラブ活動成績	9

留学生紹介	9
留学生研修旅行 in 松山城	10
留学生日本語スピーチコンテスト in 愛媛2020で南海放送賞を受賞	10
オンラインでの日本人学生のタイ・モンゴルへの留学体験報告会を実施	10
令和2年度 商船学科卒業式・専攻科（海上輸送システム工学専攻）修了式	10
卒業研究テーマ	11
令和2年度 商船学科卒業者各賞受賞者	12
令和2年2月～8月資格取得者	12
令和元年度 卒業者 就職・進学先一覧	13
令和2年度 卒業者 就職・進学先一覧	13
卒業研究インタビュー	14
卒業生からのメッセージ	15
学生相談室	15

令和2年度 前期級長・副級長・学級担任一覧

学 科	学年	級 長	副 級 長	担 任
商船学科	5年	楠 本 春太郎	村 上 凜汰朗	筒 井 壽 博
電子機械工学科	5年	渡 邊 亮 汰	岡 田 健 生	森 耕太郎
情報工学科	5年	中 司 泰 誠	旗 手 菜々子	徳 田 誠
商船学科	4年	宇 田 稔 啓	村 上 小 季	中 村 真 澄
電子機械工学科	4年	國 武 靖 大	藤 原 いぶき	政 家 利 彦
情報工学科	4年	甲 斐 帆乃佳	鴨 川 陽	益 崎 智 成
商船学科	3年	片 松 寛 太	岩 部 悠 紀	二 村 彰
電子機械工学科	3年	伊 藤 優 希	岡 田 康 生	瀬 濤 喜 信
情報工学科	3年	沖 津 真 歩	小井川 秀 斗	前 田 弘 文
商船学科	2年	杉 原 悠 斗	荒 木 かなえ	佐久間 一 行
電子機械工学科	2年	上 野 智 貴	宮 地 巧 翔	要 弥由美
情報工学科	2年	長 畑 桜 弥	藤 木 沙弥華	長 尾 和 彦
商船学科	1年	難 波 大 生	神 谷 朱 音	牧 山 隆 洋
電子機械工学科	1年	鴨 川 隼	神 谷 優 太	宮 本 賢 伍
情報工学科	1年	藤 岡 美 羽	川 本 零 慈	藤 原 崇 雅



航海訓練所 日本丸に乗船

商船学科 4年 佐藤 沙耶香

私は、12月5日から2月28日までの約3ヶ月間日本丸に乗船させていただきました。

本来10月1日からの乗船実習ですが、新型コロナウイルスの影響により10月1日からは自宅学習ということで課題がありました。その課題を提出することにより、本来、練習船で行われる座学の一部を置き換えされることとなりました。

現在、日本丸の新型コロナウイルス対策として、学校で取り組んでいるものと同様、日々の健康観察、こまめに机などに次亜塩素酸を使用して消毒、アルコールを利用し手指の消毒やうがいを利用するなどの対策を行っています。私は帆走再開するのが楽しみだったのですが、新型コロナウイルスの影響で帆走を再開することができず残念です。また、新型コロナウイルスの影響で例年とは異なり遠洋航海は外地に寄港せず、神戸出港してから機走4000マイルの航海となりました。

初めての遠洋航海は陸から離れるため船体動揺が大きく、慣れないうちは船酔いをする学生が多く苦しむこともありました。また、2年生の実習では無かった夜航海の航海当直が始まり生活が不規則になり、自分たちが起きている時間でも他の班の学生たちは次の当

直のため寝ていることがあります。そのため、日頃から足音や物音には気を遣っていましたが、更に気を遣うようになりました。また、今回の遠洋航海では船医が乗船していないため、船の上ではより一層怪我の防止、感染防止に努めました。

本来、5ヶ月の実習を3ヶ月に短縮しているので日常が慌ただしく過ぎて行き、課業や航海当直、友人との生活は思っていた以上に短く、満足いくものではありません。しかし、期間が短いからこそ全力でこの3ヶ月実習に向き合うことができました。

新型コロナウイルスにより様々な制約はあったものの、今回日本丸で学んだことは船にとどまらず今後の生活で役に立つと思います。



商船学科 4年 高橋 恵

私は8月24日に株式会社中北製作所、8月31日に鹿児島船舶株式会社のwebインターンシップに参加しました。陸上職と海上職両方の話を聞くことができ将来の職業選択の参考になりました。

中北製作所のインターンシップでは業界や工場、設計についての説明をしていただきました。本校OBの方にも出会うことができました。機械学習を用いたバルブ漏れ検知システムや、バルブの流れを可視化できる製品、圧力と流量の調節を一度にすることができるチョークフローバルブなどとても興味がわきました。設計と工場が同じ場所にあることで短い納期での製品化を実現している点、間接的に船舶に関わることができる点に魅力を感じました。「今学校で教わっていることは将来働くうえでどこかでつながる」という言葉が印象に残っています。

鹿児島船舶のインターンシップでは仕事の内容について説明をしていただきました。女性の割合も多く先

輩方もたくさん在籍しておられます。航路の説明では0～4日で約5つの港に入港することを知り驚きました。また、コロナの影響は受けていないときいて、それだけ陰で必要不可欠な職業だということを改めて感じました。今は叶いませんが担当の方が、就職活動で重要なことは仕事をみることだとおっしゃっていました。イメージと実際のギャップをできるだけ埋めるという考えにとっても共感しました。

今回のオンラインインターンシップでは途中で声が途切れたり円滑に進まない状況にもなりました。また、お互いの表情や態度がわかりにくいという点もあります。ですが画面越しに一つ一つまたはそれに近いような形で社員の方とつながることができます。自分の気持ちとやる気次第で、よりたくさんの方の会社を知ることができます。しばらく今まで通りの就職活動をするのは難しいと思いますが、オンラインも有効に使って企業選びをしていきたいです。

電子機械工学科 4年 藤原 いぶき

私は、8月の下旬に5日間、株式会社堀場製作所のインターンシップに参加させて頂きました。コロナ禍で中止やオンラインでの開催になった企業も多くありましたが、私が参加させて頂いた会社では、ほぼ例年通り行うことができました。

堀場製作所は、計測機器の製造販売を行っており、京都を中心にいくつか工場をもっています。私の参加したインターンシップは、滋賀県のびわこ工場で行われました。びわこ工場では、主に自動車などの排ガス用の計測機器の製造を行っており、実際に組み立て作業などを体験させて頂きました。高さ2メートル

ほどの大きなものから簡単に持ち運べそうな小さなものなど、さまざまな機器をみることができました。

私がこのインターンシップで気づいたことは、製品に対する気遣いと作業に対する考え方です。ただ与えられた仕事をするのではなく、どのようにすればより良くなるかを考えているということが印象に残りました。また、担当の方の丁寧な仕事で信頼が得られるというお話も印象に残っています。

今までにない状況で苦戦するところもあると思います。ですが、このインターンシップを生かし、就職活動に励んでいきたいです。

情報工学科 4年 田頭 侑己

私は夏季休暇中の2週間、日東電工株式会社のインターンシップに参加しました。その中の生産技術部という部署でAIを用いた検査技術を学びました。この部署を選んだ理由としては、どの企業でも欠かせない部署あり生産技術部の業務を知ることで他の企業でも通用できると考えたからです。

日東電工では目上の人でも「～さん」と呼ぶ「さん」呼び文化や自分の席が固定されてなく自由に座れることから風通しが良く自由な社風だと感じました。

また日東電工では若手の社員を先輩が見守る職場先輩という制度がありインターン生である私にも職場先輩が付いてくださりました。そこで一番印象に残った

のが学生と社会人の違いを教えていただいた事でした。職場先輩は「学生には答えがあり分からない事があったら先生に聞けばいいが、社会人には答えがない。現状を客観的に理解し最適解は何なのか？自分はどうしたいのかを常に考える。そして、自分の意見を持った上で相談するところが大切」とおっしゃっていました。

この話を聞いて、分からないことをなんでも質問していたら成長しないと感じ自分の意識を変えていこうと思いました。

今回のインターンシップで生産技術部の仕事に対する理解と日東電工の雰囲気を掴む事ができました。

令和2年度 次世代の海洋人材の育成 (海事・海洋分野の人材育成事業の実施)

「OBが学生に語りかける講演会」

期 日	12月3日(木)
開 催 場 所	アセンブリホール (78名)・1年生教室：遠隔 (45名)
講 演 者 名	田中 俊弘氏・川瀬 悠氏 (鳥羽商船)・三好 里沙氏
講演タイトル	キャリア教育セミナー 外航海運と内航海運について

ご講演いただいた川瀬氏は、鳥羽商船高等専門学校(航海コース)をご卒業後、商船三井株式会社入社。海上勤務および陸上勤務を経て、2018年に一等航海士になられた。ご乗船した船種はコンテナ、プロダクトタンカー、VLCC船をご経験された。現在は日本船主協会に出向されている。田中常務理事は、日本船主協会での勤務前は、日本郵船株式会社にて船長としてご活躍をされていた。今回のご講演は、外航海運と内航海運の実現場の紹介と陸上勤務の業務内容のご講演であった。進路選択、就職先を検討している学生には、現場の声を交えた臨場感のあるご説明を頂き、大変貴重な機会になった。

商船学科 中村 真澄



ご講演の様子



学生からの個別質問とご回答の様子

令和2年度 オープンキャンパス開催

7月25日(土)・26日(日)に令和2年度第1回オープンキャンパスを開催しました。本年度は新型コロナウイルスによる社会的状況を鑑み、オンライン上での開催となりました。両日とも午前と午後にそれぞれ1回ずつ、2日間で計4回の配信を行い、両日で約255名(延べ視聴者数)の方が参加されました。

当日は、まず石田校長からの挨拶があり、その後、本校の入試制度及び本校の特徴や魅力について、説明を行いました。学校説明が終わった後は、事前質問への回答を行い、また、当日にもチャット上に多くの質問が寄せられ、参加された方の本校への関心の高さが伺えました。

11月7日(土)・8日(日)に令和2年度第2回オープンキャンパスを実施しました。2日間で、146組、中学生、付添人も含め370名の方に参加いただきました。

今年度は、午前・午後の2部制で実施し、第二体育館で全体説明会を行った後、各学科の見学を行い、その後は希望者向けに進路相談会や学寮見学、練習船弓削丸の船内見学を実施しました。参加者のみなさまからは、「わかりやすく丁寧な説明で良かった」「各学科を見学して非常に興味がわいた」「案内してくれた学生の対応が素晴らしく憧れた」といったご意見をいただきました。



商船祭・体育大会

学生会副会長 情報工学科 4年 山田 健太郎

12月19日(土)に、商船祭を開催しました。今年の商船祭は、例年とは異なるかたちで開催しました。新型コロナウイルス感染予防対策をとりつつ、学生全体が楽しめるイベントを作ろうと試みました。今回、商船祭を支えた大きなイベントは、主に4つです。

1つ目は、体育大会です。競技は、バスケットボール、バレーボール、サッカー、ソフトボール、リレーの5種目です。中でも注目は、今年から追加されたりレーです。各クラス代表を選出し、白熱した勝負であり、クラスの垣根を越えて応援しあう学生たちであふれていました。2つ目は、eスポーツ大会です。これも、今年初の試みでした。この状況にも関わらず、多くの方が協力してくださったおかげで、スムーズに進行ができました。また、予想より、はるかに多いギャラリーが集まり、大いに盛り上がりました。3つ目は、音楽部軽音楽によるライブイベントです。新型コロナウイルス対策を特に行き、常に換気をして開催しました。各バンド、素晴らしいパフォーマンスを披露してくれました。4つ目は、ビンゴ大会です。今年は、例年より、景品の質と数を強化し、挑みました。様々な困難がありましたが、無事商船祭を成功させることができました。協力していただいた実行委員の方、教職員方、そして、参加してくれたすべての学生の皆様、本当にありがとうございました。



学生会より

学生会より、本年度の挨拶を申し上げます。私たち学生会は、全6名で形成されており、年間通しての学校行事イベント（商船祭、校内球技大会）の運営や開催やボランティア活動（松原清掃、海岸清掃）といった地域のお手伝いを中心に、より良い学校作り、そして全ての学生が過ごしやすい校内環境作りに努めさせていただいています。

しかし、昨年2020年は、ご存じの通り新型コロナウイルスの流行という未曾有の事態となりました。このため、学校生活に大きな影響が出るだけでなく、例年のような催しを縮小せざるを得ず、学生、教職員共に心身に大きく負担がかかり、不安でいっぱいでした。ですが、弓削商船高専の学生、教職員の全員がチーム弓削商船高専となり、校内で感染者を出

ごあいさつ

すことなく、一年間を無事に乗り越えることができたことを、大変嬉しく思います。

そして、2021年の本年は、本校が創基120周年を迎えた記念すべき年になります。チーム弓削商船高専の意識はもちろん、上島町の人々と手を取り合うだけでなく、本年をコロナ収束への大きな一年とするためへ、学生の一人一人が支え合い、弓削商船高専っ子らしく元気ハツラツとした生活を送れるように、学生会一同、心を込めて活動させていただきます。

最後になりましたが、改めまして、本校の創基120周年を心よりお祝い申し上げますとともに、今後の本校の発展と躍進を誓い、挨拶とさせていただきます。

学生会一同

尾道市内小学生を対象に「海事教室」実施



海中ドローンによる海底観察



顕微鏡を用いた海水観察

9月16日(水)から18日(金)の3日間にわたり、尾道市にて「海事教室」を実施しました。これは尾道市が推進している「尾道COOL CHOICEプロジェクト」推進事業の一環として開催され、本校商船学科教員等を講師として、尾道市内の計4校の210名の小学生に対し、出前授業を実施したものです。

学習内容は、環境学習、体験学習、船に関する講義の3つに分けて実施され、特に本校所有の水中ドローンから、尾道水道の海底を映しだされた際には、小学生から歓声が沸き上がり、興味津々の様子でした。

また、体験学習の中でロープワークやiPadを活用した弓削丸VR体験も実施され、小学生にも分かりやすく本校の教育や特色などを伝えることができました。

環境学習（マイクロプラスチックによる環境汚染に関する講義）及び船に関する講義では、座学がメインでしたが、合間に質問を挟んだり、尾道水道の海水を顕微鏡で観察する等の簡易な科学実験を行うことで、小学生でも楽しんで参加できるよう工夫を凝らした講義を実施しました。

参加した小学生からは、尾道水道の海底があんなに汚れているとは思わなかった。海の環境を守るため3Rを推進し、ごみの問題を考えていきたい、といった感想が寄せられていました。

「チャレンジキャンパス2020」開催

10月4日(日)に「チャレンジキャンパス2020」を開催しました。

本イベントは、子どもたちに楽しい体験を通じて科学技術の素晴らしさ・楽しさ・夢を伝え、科学に対する興味や関心を持ってもらおうと実施したもので、当日は約70名の方が来場しました。

「航海術を学んでお宝をさがそう!」、「ロボットプログラミングでドローンをとばそう」、「発想力でAIと対決してみよう!」、「家庭で出来る簡単実験」など、趣向を凝らした12の講座では、好奇心いっぱいの子どもたちが初めての体験に目を輝かせながら、「弓削商船かがくはかせ号」の取得を目指して真剣に取り組んでいました。

来場者からは、「知らないことを知れてよかった。」、「先生方の説明がとてもわかりやすく、子どもたちも理解できていました。楽しそうな姿が見れて、良かったです。」などの感想が寄せられました。



「ひとこねくと」支援センター事業

コロナ禍の中，移動制限を余儀なくされ，里帰りができなかったり，福祉施設では面会に制限を与えられています。インターネットを利用すれば，リモートで家族を相互に接続できることは知っていますが，高齢者はスマホなどの利用方法がわからないなどの問題を抱えています。リモート支援事業「ひとこねくと」は，島の人たちのスマホ技術の向上を支援し，移動制限等によって会えない家族などを繋ぐプロジェクトです。

リモート支援事業「ひとこねくと」は，島の人たちのスマホ技術の向上を支援し，移動制限などによって会えない家族などを繋ぐプロジェクトです。

12月に開催した「スマホ教室」ではせとうち交流館にて，のべ17名の町民の方が参加され，本校の学生がスマホの使い方などを丁寧に説明しました。学校では30名の学生が参加を希望し，複数人で交代しながら支援に当たりました。参加者からは「無料で個別に対応してくれるので感謝している」「今後も継続してほしい」などの要望を頂きました。また，1月26日からは海光園の利用者さんとリモート面会を行う「リモート接続支援」を3月末まで実施します。



コンテスト出場報告

学習デジタル教材コンクール 津波シミュレータ

情報工学科 4年 中神 悠太

私は，Javaを用いて「津波シミュレータ」を開発しました。このシミュレータを用いることで，津波の発生メカニズムや特性などを学ぶ事ができます。シミュレートには現実の海底地形を用いることが可能であり，仙台湾や土佐湾，北海道東方沖などを選択することが出来ます。また，海底地形データを自由に作成することもでき，環境を変化させて繰り返しシミュレートすることによって津波の挙動に関する学びを深めることが出来ます。

開発の始まりは，寮で牧山先生と雑談をしたことでした。地震大国と呼ばれる日本では，10年前に発生した東日本大震災の記憶にある通り，津波に関する注目が非常に高いです。しかし，高校物理において津波を授業で教えている学校は日本国内でほとんどありません。取り扱われない理由として，津波のメカニズムなどの説明が難しいことが挙げられます。振り子やばねといった分野では実験を行うことでその運動を観察することができ，数式や問題の理解を容易に行うことが出来ます。しかし，津波に関する実験は難しく，授業では数式のみでの説明となってしまいます。そのため，理解度を高めることが出来ず，授業で取り扱われるこ

とがほとんど無いのです。このような現状から，物理教育にIT技術を取り入れることで問題を解決できるのではないかとアイデアが生まれ，シミュレータの開発に取り組み始めました。

シミュレータの開発には，これまでの情報工学科での学習を活かしてプログラミング言語の1つであるJavaを用いて行いました。シミュレータの肝となる津波の挙動の再現は，牧山先生や東京大学の丹羽先生のご指導のもとで行いました。様々なご協力，ご指導によりシミュレーションの精度を十分高めることが出来ました。

完成後には，牧山先生にシミュレータによる実習を取り入れた授業を行っていただきました。授業に参加した学生のアンケートでは「動きを視覚的に理解しやすかった」といった回答が多く，シミュレータの有用性が高く評価されており開発者として嬉しかったです。加えて，『第36回学習デジタル教材コンクール』では企業賞をいただくことができ，私の開発したシミュレータが社会的に評価されたことに大変満足しています。

部活動を終えて

今年度の部活動は、全員が揃って活動する期間が1ヶ月半しかない中でラグビー高専大会に向けて練習してきました。結果は中四国大会で負けてしまいましたが、コロナ禍の中試合が行えたことに感謝したいと思います。主将としてチームの練習メニューを考えたり、チームトークの時間を設けてそれぞれの意見や低学年へのアドバイスを言ったりしました。ラグビー部の長所は、学年関係無く自分の意見を言うことができることです。ラグビーは未経験で始める部員がほとんどなので、全員で意識統一をするための共有や低学年の分からないことを言いやすい環境を作るためにチームトークがとても大切です。

次にラグビー部の決め事として挨拶や部室、道具の整理整頓などを徹底していました。練習前に筋トレに

ラグビー部主将 商船学科 5年 相中 崇志

来たり、練習後に自主練をするように声かけをしたことで自主性が身に付いた部員が多くいます。

そして、今まで支えてくれたチームメイト、マネージャー、顧問の教官の存在を知ることが大切であると学びました。チーム内でお互い熱くなりぶつかり合うこともあります。チームメイトを大切に思い練習後は冷静に話し合って成長しています。当たり前であることはたくさんの人によって支えられているからこそであると学び、とても感謝しています。私はラグビー部に入ってたくさん成長することができました。これからは後輩たちが頑張って一つずつ積み重ねて全国高専大会に出場できるようにOBとして見守っていきたいと思います。これからも弓削商船ラグビー部の応援をよろしくお願いします。

バスケットボール部 電子機械工学科 4年 松葉 春稀

こんにちは、弓削商船高等専門学校バスケットボール部です。

私たちは、アグレッシブ、タフ、思考をキーワードに主体性にこだわって日々練習に取り組んでいます。部内では先輩後輩同士の仲が非常に良く、バスケットボールを楽しむという環境で活動しています。

主な成績としては、2019年四国高等専門学校大会春夏共に優勝、同年の西日本高等専門学校大会優勝、2020年愛媛県高等学校新人大会東予地区予選優勝と、全て学校として初優勝をあげることができました。

2020年は、新型コロナウイルスの影響で活動が今までのようにできなくなり難しい状況でしたが、チーム一丸となり感染対策に十分気をつけながら活動しました。

現在でも感染者が増え続けており、感染予防のためできることが限られていますが、そんな中でも一人一人が工夫をし、バスケットボールを通じて自分だけでなく周りも元気になれる、そんな活動ができればと思っています。

いい射を目指して！

今年の弓道部には、10名程度の新一年生が入部しました。活動日時は平日の早朝と放課後で、県大会や毎年2回開催される高専大会に向けた練習を行っています。

今年は高専大会がすべて中止となりましたが、部員は積極的に部活動に励んでいます。以下は、部活動に関する部員のコメントです。

「朝練は起きるのが少しつらいときがあるけど、一日のスタートに弓道ができてうれしい」

「弓道は、自分の課題とじっくり向き合って、克服できるのがいいと思う。最近では、手の内(的中率を左右する、弓の握り方)を工夫することで、安定して弓をひけるようになった」

弓道部

また、毎年の楽しいイベントとして生口島の瀬戸田弓道場での強化練習を行っています(今年は日帰りで実施)。



瀬戸田の強化練習の様子

クラブ活動報告

剣道部 商船学科 5年 杉本 匡史

令和元年の全国高専大会では、決勝戦で神戸高専に敗れ、準優勝で終わってしまい非常に悔いが残る思い出になりました。その悔しさを忘れず、今年こそ優勝するために稽古に取り組むつもりでしたが、新型コロナウイルスの影響により、稽古に励むことがなかなかできませんでした。

前期は遠隔授業となり、みんなと稽古ができないため地元で自主練をしたり、リモートでミーティングを行ったりしました。自主練では、自分が行ったメニューを教官に報告することになっていましたが、最初はみんなの報告が揃いませんでした。しかし、教官やコーチ、OBの方々から指摘やサポートして下さったり、自主練のメニューを考えてもらい、7か月間（2月～8月）の自主練リストが作成できました。

後期から学校生活も通常に戻り、部活も無事再開することができました。全国高専大会が中止となり、3

月に代替大会が開かれることになりました。私たちは、優勝を目標にし、チーム一丸となり、日々厳しい稽古をしていきました。しかし、今年度の2月に代替大会の中止の発表がされ、何もないまま終わってしまいました。

5年生は、通常なら8月で部活を引退します。ここ（2月）まで厳しい稽古を乗り越えることができたのは、一緒に頑張った仲間とご指導して下さった監督とコーチ、サポートして下さったOBの方々、そして、応援してくれた保護者のおかげで、自分の宝物と思っています。部活を辞めたい気持ちも何度かありましたが、最後まで続けて本当に良かったです。5年生は引退し今年卒業して社会人になりますが、後輩たちが「全国制覇」という目標を達成するように遠くから見守り、応援していきます。

大会を終えて

弓削商船高専サッカー部は、本年度の全国高等専門学校サッカー選手権大会四国地区予選会Aグループ1位通過し、悲願であった全国高等専門学校サッカー選手権大会に出場することができました。

私は、3年生からキャプテンを務めてきました。最初に、キャプテンとして実施したことは、私たち選手自身で練習メニューやチーム戦術を考えました。次に、考えたことを行動できる実行力をつけるために、チーム全員の生活態度から改善するようにしました。挨拶や学校での授業態度、部室の整理・整頓などを徹底しました。チームメンバーは、文句を言わずに私についてきてくれたおかげで、チーム全体として成長することができ、大会結果も以前とは大きく変わりました。

今年の部活動は私にとって、とても印象的なものになりました。今年は新型コロナウイルス感染症が流行したこともあり、接触プレーが制限されていました。しかし、個々の技術を見直す時間ができたとプラスに捉え、日々感染対策を徹底しながら技術の向上を目指しました。全国大会を目指す過程の中で、壁にぶつか

サッカー一部主将 電子機械工学科 4年 吉田 航大

ることもありましたがチーム一丸となって乗り越えることができました。

全国大会では、私たちがほかの高専を相手にどこまで通用するのか挑戦しました。惜しくも一回戦で敗退してしまいましたが私たちが得たものは大きかったと思います。私は今回、経験したことを後輩たちに引継ぎ、弓削商船高専サッカー部をどの試合も勝っていけるチームにしていきたいと思います。

最後になりますが、本校校長はじめ教職員の皆様、愛媛県サッカー協会の皆様、全国高等専門学校サッカー選手権大会四国地区予選会および全国高等専門学校サッカー選手権大会の運営に携わっていただいた関係皆様、応援して下さった皆様にお礼申し上げます。ありがとうございました。



令和元年10月～令和2年9月のクラブ活動成績

バスケットボール (男子)	第10回男子西日本女子全日本高専バスケットボール大会 令和元年12月26日～28日	バスケットボール競技 (男子)	優勝	
	東予地区愛媛県高等学校バスケットボール新人大会 令和2年1月11日～12日	バスケットボール競技 (男子)	優勝	
柔道	愛媛県高等学校柔道新人戦・東予地区大会 令和元年10月19日～20日	個人戦 57kg級	第2位	荒木かなえ (S1)
陸上	今治地区陸上競技大会 令和2年9月26日	男子 走幅跳	第1位	藤原 翔一 (M2)
		女子 走幅跳	第1位	田房 真歩 (I1)

留学生紹介



情報工学科 3年 ズンドウイ チンギス オッド

私の出身地はモンゴルの首都ウランバートル市です。大きな夢と将来への希望を持って2年前に日本に来ました。そして1年間東京で初めて日本語を勉強しました。その間、初めて日本の文化や社会を間近で探検することができました。私の目には日本人の暮らしは規則やルールをきちんと守っていながら、生活をとても楽しんで生きているように写りました。社会全体に人々が豊かな暮らせる仕組みができていて、進んだ国だと思いました。それはまるで高級腕時計のように正確なものだと思いました。日本に来て自分で見ると、日本がこんなにユニークな国だとは想像もしていませんでした。外国人である私から見るとそんな厳しい規則とルールなどがちょっと複雑で硬

く見えました。しかし、日々、日本の生き方の素晴らしさを少しずつ理解しています。

日本に来て、科学、文化、哲学、そして日本語など多くを学んでいます。オンライン授業の期間は、対面授業の準備と違ってたくさん勉強しました。そして、9月に授業が再開してとても役に立ちました。しかし、日本語はとても難しいです。流ちょうに話せるのにはまだ時間がかかりそうです。

この学校で過ごす時間はまだあと2年間あります。毎日、できる限り自分自身を向上させていきたいです。東京で過ごした1年間と弓削島で過ごした1年間、どちらの場所も非常にユニークで、人生を変える素晴らしい体験をしました。いつも私を助けてくれている先生、学生の皆さんに感謝します。みんなと一緒に成長していきましょう。



情報工学科 3年 バヤラー ニャムバヤル

私の出身はモンゴルです。首都ウランバートルから400キロ離れた人口15万人のエルデネット市です。小学生のころ「ナルト」を見て日本に興味を持ちました。いつか日本に行きたいと思うようになり、高校を卒業した後、モンゴルの高専プログラミングの学校で1年6ヶ月間、日本語を勉強し、留学試験を受けて日本に留学することになりました。去年の4月、日本に来る予定でしたが、新型コロナウイルスで、11月まで、モンゴルからオンラインで授業を受けました。

オンラインも初めて、専門的な科目も初めてで不安でいっぱいでした。やっと日本に来て、弓削島に

ついた時には、初めて海や砂浜を見ました。海がない国から来た私にとっては弓削島は水がいっぱい、今まで見たことのない景色に感動しました。

対面授業が始まり、まだ日本の学校生活に慣れていませんが、3ヶ月が経ちました。短いけれどその間にモンゴル人にはない考え方、価値観、文化の違いなどを学び、日々驚きと楽しみでいっぱいです。勉強面では、都市から離れていて自然豊かで、きれいな環境で、授業によく集中でき、島生活を楽しみながら学校生活を送っています。

日本に来たばかりなのに、もう学年末です。コロナが収まったら日本のいろいろな地域を旅行し、日本にいるときしかできない体験をたくさんしたいと思っています。

留学生研修旅行 in 松山城

12月19日(土)に留学生3名が愛媛県松山市へ留学生研修旅行に行きました。今年度は新型コロナウイルス感染拡大の中の実施であるため、翌日行われる日本語スピーチコンテストに合わせて、同県内である松山城を見学しました。

入城には松山城ならではのリフトを利用し、石垣や天守を見て回り、資料館で愛媛や松山城の歴史を学びました。



留学生日本語スピーチコンテスト in 愛媛2020で南海放送賞を受賞

12月20日(日)に本校から愛媛県留学生等交流推進会議主催の「留学生日本語スピーチコンテスト in 愛媛2020」へ3名の留学生が参加いたしました。

大会全体で13名の学生が参加しており、結果は情報工学科3年チングスさんが南海放送賞を受賞しました。参加者の過半数が大学生の中で、素晴らしい結果を残してくれました。

情報工学科3年ニヤムカさんは、新型コロナウイルス

ス感染拡大により来日が遅れ、モンゴルからの遠隔授業を行った体験をテーマにスピーチを行いました。情報工学科5年ジャイさんは、卒業研究の合間を縫って練習し、「日本語の“イロハ”」の勉強について自分の実体験をもとにスピーチを行いました。

3名の留学生は、非常勤講師の黒瀬先生と連日練習を重ね、前日のホテル到着後や当日の朝まで練習をしたそうです。彼らの今後のさらなる活躍に期待します。

オンラインでの日本人学生のタイ・モンゴルへの留学体験報告会を実施

本校では、例年タイ・モンゴルへ短期留学を実施しています。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響により実施できませんでした。そこで、前年度のタイ・ナコンパノム大学へ留学した学生と、モンゴル・モンゴル科学技術大学へ留学した学生によるオンライン報告会を実施しました。それぞれの学生が

パワーポイントを使って留学で行った研修内容や学んだ国際的な文化、思い出について、3・4年生へ向けて配信を行いました。この報告は録画して配信を行っており、学生はいつでも報告を視聴することができます。

今年度の自粛対応をバネに、より一層学生たちには世界へ飛び立ってもらいたいです。

令和2年度 商船学科卒業式・専攻科 (海上輸送システム工学専攻) 修了式

令和2年9月29日(火)、令和2年度商船学科卒業式・専攻科(海上輸送システム工学専攻)修了式が挙行された。今年度は、卒業式・修了式への出席を卒業生、修了生、保護者及び教職員のみ限定し、座席の間隔を空けるなど、新型コロナウイルス感染予防対策をとった上での式典となった。卒業式・修了式では、卒業生44名及び修了生2名に卒業証書・修了証書が授与され、校長から「皆さんが素晴らしい人生行路を進まれることを祈念します」と式辞が述べられた。その後、在校生総代の送辞に続き、卒

業生総代の答辞が行われた。最後に、卒業生一同が登橋礼を実施し、「ごきげんようー!」の掛け声とともに全員の制帽が美しく宙を舞った。卒業生・修了生たちは弓削商船高専での思い出を胸に、社会という大海原へ出航した。



卒業研究テーマ

研究題目	研究学生	指導教員
令和元年度商船学科		
船舶の歴史的用途の変化	藤村 悠希, 小野川一貴	寶珠山輝生
内航タンカーの火災事故と防火対策の現状について	金山 花帆, 松島翔生斗	寶珠山輝生
松山市の外航クルーズ船誘致における課題	塩見 歳人	野々山和宏
神戸港における外航クルーズ客船の寄港状況と誘致活動	三井 望	野々山和宏
フラップ付き魚型水平断面舵に働く流体力に関する研究	辻坂 将, 藤原 真琴	湯田 紀男
入学志願者確保のための商船学科PRについて	鈴木 凌大, 藤原 瑠奈, 本田 清愛	湯田 紀男
混合パラメータがBDF生成に与える影響についての調査その2 —触媒の最適値の調査と混合濃度の影響について—	桑田楨之介, 木曾 昂	秋葉 貞洋
Mg-Al系層状複水酸化物 (LDH) を用いたナノコンポジットガスバリア膜の作製と特性比較	池田 和樹, 上田 楓	池田 真吾
マルチフェロイックデバイスの開発	池田 柊	柳沢 修実
Ti-Ni形状記憶合金における温度に対する微細構造変化	岡野 凌	柳沢 修実
備讃瀬戸東航路におけるこませ網漁船の操業実態調査	大澤 勝真, 藤木 和彦	山崎 慎也
弓削商船版BRM訓練の検証	片山 大海, 中曾 悦之	山崎 慎也
高専商船学科共通カリキュラムデザインについて	園田 祐大, 伊藤 友陽	二村 彰
船舶係留索張力の教材の開発	池田 文仁, 八木 秀真, 織田 隼舞	二村 彰
スチームエンジンを用いた商船学科PR方法の検討	杉本 泰伸, 若松 敬史	中村 真澄
ブラックアウト実験におけるERMスキル計測手法の検討 —Threat Managementを考慮したコミュニケーションスキル評価—	國貞 晴信, 三島 亮太	中村 真澄
男女の意識ギャップが及ぼす女性船員のキャリア形成	池田 悠歩, 柏原 美伽	村上 知弘
VGPに適応する潤滑油の考察	松浦 天里, アミル アシュラフ ビンズルカルナイン	村上 知弘
マイクロプラスチックファイバの分解処理に向けた液中プラズマ実験装置における放電試験	渡藤 優真	佐久間一行
シート状ヒートパイプの熱輸送量の向上手法の検討	三好 成美	筒井 壽博
4ストローク水冷エンジンにおける燃料消費量計測システムの構築	正木 崇善	筒井 壽博
和船について —I— (構造と帆走性能について)	松本慧士朗	高岡 俊輔
帆船の研究 —VII— (西洋型帆船と和船の性能等の比較)	菰田 雅斗, 坂本 和希	高岡 俊輔
環境負荷軽減に関する研究 (納豆菌の水質浄化作用に関する研究その2)	神田 力, 前田 茉耶	多田 光男
環境負荷軽減に関する研究 (炭蓄電池の利用法の調査)	田辺 光, 中西 柊斗, 山崎 哲久	多田 光男
令和2年度電子機械工学科		
ドローンのバッテリー自動交換システムの設計と製作	中田 燦喜, 畑中 隆一, 宮地 浩人 横山 友花	Davaa Ganbat
自動航行ヨットのための駆動模型の製作	池本 秀雅, 川本 裕也, 品川 晃 村上 快	長井 弘志
OpenFOAMによるディフューザ解析モデルの作成と流速変化の研究	田林 佳樹, 藤本 厘	政家 利彦
有限要素法における曲げ変形の変位境界条件の比較	越智 洸太, 熊谷麻麗衣, 上甲 和弥	政家 利彦
竹炭の水質浄化性能を利用したマイクロプラスチックの除去に関する実験的研究	澤口 天芸, 逸見 太郎	森 耕太郎
遠隔操作機器を用いた海岸と海中でのプラスチックゴミ調査	岡田 健生, 中林 翔	森 耕太郎
小型計測器を用いた冬季における上島町のPM2.5分布図作成	越智 元基, 竹林 将	大根田浩久 伊藤 武志
味覚によるコーヒーの味認識に関する基礎的研究 —SD法を用いた感性評価の一考察—	向井 輝	大根田浩久
ボールペンの使用性評価に関する基礎的研究 —感性評価の導入と物理特性の関係性について—	渡邊 亮汰	大根田浩久
理科系教育のための潜水艇の作製	藤井 皇丞, 三上 楽人	藤本 隆士
火山灰自動計測データの可視化に関する研究	青山 竜巳, 村上 芽衣, 東山 武多 中司 大輔	瀬濤 喜信
高専ロボコンのためのロボット技術調査	出田七摘菜, 新田 修梧, 峯松 英寿 森田 健介	大澤 茂治
電子レンジ内で励起された電磁波が水に与える加熱パワーの数値計算による解析	今吉 蒼馬, 大本 悠太	河合 智賀
ドローン用フライトコントローラを用いた六輪駆動車の自動運転	神石 環大, 西迫 秀磨, 西村 賢仁 藤原 優伍	福田 英次

研究題目	研究学生	指導教員
令和2年度情報工学科		
NLTKを用いたテキストデータからの英単語抽出	小川 莉穂, 塩飽 航平, 杉野 舞 多田 伊吹	前田 弘文
画像処理による立石港待機レーンの混雑量計測システムの開発	宮地 香樹	田房 友典
地域創生演習実施時間管理システムの開発	岡 美波, 吉田 朝香 ジャyson サイチャ	田房 友典
深層学習を用いたPM2.5濃度予測に関する研究	井上 皓介, 黒飛 拓摩, 榊原 楓 藤山 響	徳田 誠
コロナ禍における高専教育の実験実習に関する研究	市川 誠, 高橋 志	葛目 幸一
サーマルカメラを用いた室内の滞留人数計測システム	大江 勇太, アバカル ビン オスマン	葛目 幸一
機械学習を用いた上半身姿勢推定による居眠り検出システム開発	住廣 香奈	益崎 智成
音響信号処理による楽曲レコメンドシステムの開発	田頭 直樹	益崎 智成
月の観測アプリ	赤沢 菜月, 今井 咲希, 岡崎 鈴 莉田 禮王	高木 洋
液中プラズマ実験のプラズマ発光監視システムの開発	高瀬 玄渉	佐久間一行
移手段の地域特性・利便性および競争力に関する研究	大塚 知咲, 岡野 志織, 田坂 百絵 田中 秀	塚本 秀史
物体検出による画像切り取りを利用した画像修復に関する研究	中司 泰誠, 旗手菜々子	梅木 陽
試験勉強アドバイス投稿・閲覧サイトの作成	兼田 晃太郎, 莉田 響, 河野 真也 中山 裕太	峯脇 さやか
FeliCaを利用した自動車のドアロック解除システムの開発	伊藤 鴻希, 田中 勇稀, 寺山 礼悟	榊田 温子
遠隔授業用Moodleサイトの強化策の提案	池田 裕希	長尾 和彦
サーモセンサを用いた三密回避システムの開発	松本 琴葉	長尾 和彦
身近なIoT機器による身体障害者の健康管理に関する提案	村上 実由	長尾 和彦

🎉 令和2年度 商船学科卒業生各賞受賞者 🎉

賞名	航海コース	機関コース
特別精励賞	藤木 和彦	柏原 美伽 藤原 真琴
体育功労賞	織田 隼舞 (野球部)	池田 柊 (ラグビーフットボール部)
	坂本 和希 (野球部)	上田 楓 (ラグビーフットボール部)
	田辺 光 (野球部)	杉本 泰伸 (ラグビーフットボール部)
	中曾 悦之 (バスケットボール部)	渡藤 優真 (野球部)
	小野川一貴 (水泳競技部)	國貞 晴信 (柔道部)
	中西 柊斗 (水泳競技部)	桑田 慎之介 (剣道部)
	藤村 悠希 (水泳競技部)	三島 亮太 (水泳競技部)
松島翔生斗 (水泳競技部)		
文化功労賞	—	—
全日本船舶職員協会賞	藤村 悠希	三好 成美
同窓会会長賞	藤木 和彦	國貞 晴信
後援会記念品受取代表者	—	藤原 真琴
卒業生答辞	中西 柊斗	—
海技教育財団会長賞	田辺 光	渡藤 優真
日本船舶海洋工学会奨学褒賞	坂本 和希	池田 和樹
日本航海学会奨学褒賞	中西 柊斗	—
日本マリンエンジニアリング学会 優秀学生奨励賞「山下勇賞」	—	藤原 真琴

令和2年 🌸 2月～8月 🌸 資格取得者

資格試験名	クラス (取得時)	氏名
海技士 (航海)	1級	S5 友永 亮太
	2級	S5 杉本 匡史
		S3 山本 悠陽
海技士 (機関)	2級	S4 藤江那由多
ITパスポート		I4 鴨川 陽

令和元年度 卒業生 就職・進学先一覧

令和2年3月1日現在

◆電子機械工学科

(50音順)

RVランド株式会社	株式会社アイチコーポレーション	株式会社アイワ技研
株式会社赤阪鐵工所	旭化成株式会社	アンデックス株式会社
エヌエスディ株式会社	大分キャノン株式会社	花王サニタリープロダクツ愛媛株式会社
キャノンメディカルシステムズ株式会社	株式会社キャンピングカーランド	株式会社光電製作所
神戸市消防局	コニカミノルタジャパン株式会社	株式会社島津アクセス
嶋本ダイキャスト株式会社	住友化学株式会社	大洋電機株式会社
株式会社橋本チエイン	長岡技術科学大学 (進学)	日本オーチス・エレベータ株式会社
パーソルR&D株式会社	株式会社FEBACS	フジテック株式会社
富士電機株式会社	株式会社堀場製作所	株式会社マキタ
三菱重工機械システム株式会社	三菱電機株式会社 受配電システム	三菱電機プラントエンジニアリング株式会社
村田機械株式会社	ムラテックCCS株式会社	弓削商船高等専門学校専攻科 (進学)

◆情報工学科

(50音順)

株式会社インフォコム西日本	NTT東日本グループ	株式会社NTTフィールドテクノ
株式会社エネルギー・コミュニケーションズ	関西電力株式会社	京セラ株式会社
株式会社技研製作所	コベルコソフトサービス株式会社	コニカミノルタジャパン株式会社
サントリーグループ	JFEスチール株式会社西日本製鉄所	神鋼テクノ株式会社
株式会社SUBARU群馬製作所	ソニーデジタルネットワークアプリケーションズ株式会社	常石造船株式会社
東海旅客鉄道株式会社 (JR東海)	豊橋技科大学 (進学)	株式会社トラスト・ネクストソリューションズ
株式会社南陽	日本オーチスエレベータ株式会社	パーソルR&D株式会社
富士ゼロックスサービスリンク株式会社	富士通株式会社	株式会社堀場製作所
マツダ株式会社	株式会社マツダE&T	三浦工業株式会社
村田機械株式会社	メタウォーター株式会社	弓削商船高等専門学校専攻科 (進学)
株式会社LIXIL		

◆生産システム工学専攻

(50音順)

株式会社インダ	株式会社OGCTS	九州工業大学大学院 (進学)
セイコーエプソン株式会社	DMG森精機株式会社	日東電工株式会社尾道工場

令和2年度 卒業生 就職・進学先一覧

令和2年9月末日現在

◆商船学科

(50音順)

旭運輸株式会社	今治造船株式会社	上野トランステック株式会社
栄興船舶株式会社	オーシャントランス株式会社	国立研究開発法人 海洋研究開発機構
鹿児島船舶株式会社	川崎近海汽船株式会社	如月汽船株式会社
共栄マリン株式会社	ケライン0-0-バルクシップマネージメント株式会社(旧大洋日本汽船株式会社)	神戸大学 (進学)
佐藤国汽船株式会社	三徳船舶株式会社	三洋海事株式会社
株式会社商船三井	ダイハツディーゼル株式会社	丹羽汽船株式会社
東幸海運株式会社	内海曳船株式会社	名古屋汽船株式会社
日本マリン株式会社	広島共同汽船株式会社	福寿船舶株式会社
松山・小倉フェリー株式会社	明治海運株式会社	株式会社ユナイテッド・ジャパン
株式会社洋行	栗林マリタイム株式会社	海外語学留学

◆海上輸送システム工学専攻

(50音順)

神戸大学大学院 (進学)		
--------------	--	--

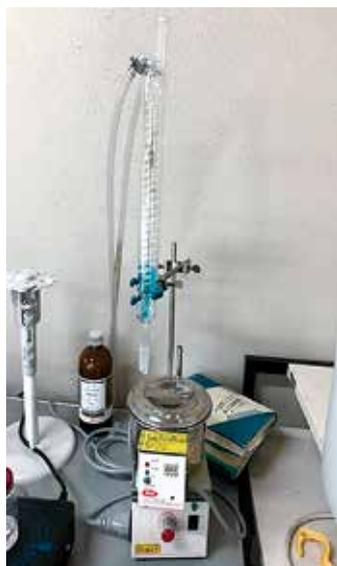
卒業研究インタビュー

商船学科 5年 安藤 来夢 脇坂耕太郎

私たちの研究室では、包装材料に用いられる粘土を作製し、その性能評価をしました。

コロナウイルスの影響で遠隔授業になったこともあり、前期は担当教官が提示した内容の論文を探してまとめるなど、粘土についての理解を深めました。

後期授業に入り対面授業に戻ると、早速粘土の作成に取り掛かりました。一つの粘土を作製するのにかなり長い時間を要するので、従来の半分しか実験する期間がないのはなかなかつらかったです。



情報工学科 5年 松本 琴葉

新型コロナウイルス感染拡大に伴い、三密を測定するシステムの需要が増えているが、既存のシステムは高価なものが多い。そこで私は、マイコンのRaspberryPiとサーモセンサを用いた三密を測定する安価なシステムの開発を目的とし、研究を行った。

まず前期の間にサーモセンサの性能評価実験を行い、その結果をもとにシステムの内容を検討した。実験結果からサーモセンサだけでは三密は測定できないと判断したため、カメラと組み合わせたシステムを開発した。写真は、システムの実行画面をキャプチャしたものである。

システムを開発する上で最も苦勞したことは、サーモセンサの性能評価実験である。私はシステムを開発する前に、使用するサーモセンサがシステムに要求される性能に達しているかの実験を行った。しかし、実験は遠隔授業が実施されていた前期に行ったため、実験の計画を立てたり実験を行う場所を探したりという点で非常に苦勞した。

電子機械工学科 5年 横山 友花

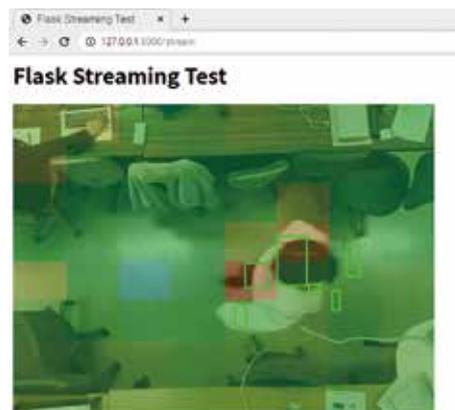
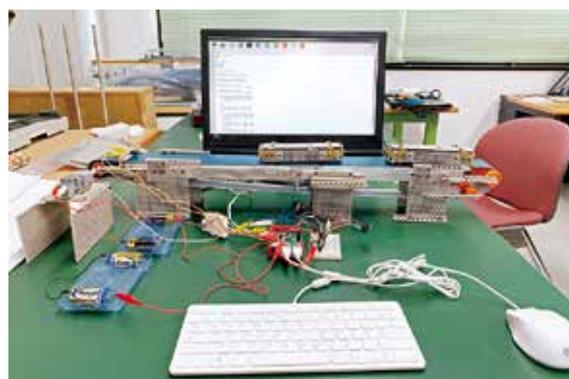
私は卒業研究で、ドローンのバッテリーを自動で交換するシステムの設計・製作を行いました。

自分たちでゼロから何かを作ることは、この卒業研究が初めてでした。今まで習った知識を活かしながら取り組む中で、足りないと思う知識や技術は、自ら進んで習得していくことが不可欠だと知りました。

試行錯誤の毎日で、思うような結果が出ないこともありましたが、その結果で妥協することなく、きちんと受け止め、うまくいかなかった原因は何か？どうすればうまくいくか？と、分析と改善を行いながら進めていくことで、自分の納得のいく結果を得ることができました。うまくいなくても、次につなげることができれば、その費やした時間や努力は決して「無駄」にはならないと思います。普段の勉強や、いずれ社会に出て仕事をするようになってからも、このことは意識していきたいです。

この卒業研究を通して、研究やものづくりには、自分で考え解決する力や、探究心、向上心を持って取り組むことが大事であると感じました。

私は、この卒業研究で培った知識や技術、考える力を、これからも活かしていきます。



卒業生からのメッセージ

商船学科28期生 岡野 凌

私は令和2年9月に全課程を修了し弓削商船高等専門学校を卒業しました。

本校での4年半では様々な事を学び経験し、船乗りとしての基礎を身につける事ができ充実した学校生活を送る事ができました。また1年間の乗船実習では学校で学んだ事を実際に活用することで、より深い知識や技術を習得する事ができました。

卒業後は、機関士として内航船に乗船しました。怪我なく無事に初乗船を終える事ができたのは本校で得た知識のおかげだと思います。

通常運行に加えドック作業などを実際に経験したのですが、船乗りの仕事は常に危険と隣り合わせであり、確かな技術と豊富な知識、強い責任感を持ち挑まなければ務まらないと身をもって体験しました。

未だに理解できていない事などもあります。在学

中にもっと船に興味持ち、様々な事を疑問に思い教官方に話を聞いておくべきだったと後悔もしています。

まだまだ未熟ですが海運業界で活躍できるよう、本校で積み重ねた事を糧に精進していく所存です。



弓削商船高等専門学校



学生相談室長
野口 隆

🗨️ カウンセラー紹介

一人で悩んだり考え込んだりせず、気軽に相談するよう、学生に案内しています。お子さまが困っているでしたら、ぜひ学生相談室をお勧めください。

曜日	時間	担当
月・火	12:00~18:00	梶谷亜由子 カウンセラー
月	15:00~17:00	春田 裕和 学習相談員
水	12:00~17:00	坂本 和夫 スクール ソーシャルワーカー
木・金	15:00~18:00 9:00~17:00	眞鍋 一水 カウンセラー

📖 予約方法・場所

「保健室」で予約します。図書館の奥の建物の2階にあります。場所がわからなかったら保健室で聞いてください。

在学生に関する相談であれば、ご家族からの相談も受け付けています。

問い合わせ先は、保健室0897-77-4621 (学生支援係)です。

毎月、学生相談室だよりを発行し、学校ホームページにも掲載していますのでご覧ください。



相談室ホームページ QRコード